

記 事

例会記録

日本医史学会・第36回神奈川県地方会秋季会

合同9月例会 平成22年9月11日(土)

鶴見大学医学部3号館2階

一般講演

1. 海上医学研究の歴史と展望

一戦後60年の船員の医療史をふり返って一

庄田昌隆, 山中功一

2. はしかの終わりはちかいだろうか

佐分利保雄

特別講演

結核の治療の歴史

島尾忠雄

教育講演

口蹄疫等の海外悪性伝染病撲滅の歴史

福所秋雄

日本医史学会10月例会 平成22年10月23日(土)

順天堂大学医学部9号館2階8番教室

1. フランス統治時代のベトナム医学

阮氏楊 (Nguyen Thi Duong)

2. プラヴァーズ伝説の形成

一皮下注射器の誕生と医療技術評価一

月澤美代子

日本医史学会11月例会 平成22年11月27日(土)

順天堂大学医学部10号館2階203

1. ライデンのシーボルト旧蔵の鍼灸関係資料について

ヴィグル・マティアス, 町泉寿郎

2. 三木栄の業績に関する調査報告

郭 秀梅

例会抄録

『断毒論』と『国字断毒論』、『翻訳断毒論』の比較

— 漢方医学の立場から —

西巻 明彦

1. 『断毒論』の成立

『断毒論』については、北里大学東洋医学総合研究所所蔵の5巻本を参照した。『断毒論』の詳しい書誌については深瀬泰且氏がすでに発表され(北里本, 山崎本)ており、杏雨書屋本については、香西豊子氏の論文に記載がある。

北里本は文化8年の出版(山崎本は文化7年)で、漢文体で書かれた『断毒論』2巻, 漢字かな混じり表記で書かれた『翻訳断毒論』1巻で、題簽に天地人の記載があり修琴堂文庫由来である。一方『国字断毒論』1巻と『国字断毒論附録』1

巻は文化11年7月の出版で題簽に乾坤とある。『断毒論』の抄訳が『翻訳断毒論』だと言われているが、漢方医学的な病因論は『断毒論』に記載されており、また『断毒論』に記載されていないが、『翻訳断毒論』に新たに記述されている点もあり、両者には差異が認められる。『断毒論』が医師向けならば『翻訳断毒論』は一般人向けで、三巻本として構成されていると考えてよい。また、末尾に『続翻訳断毒論』を近日中に出版する予定の広告文が掲載されている。『国字断毒論』は文化11年7月の出版である。『国字断毒論』におい